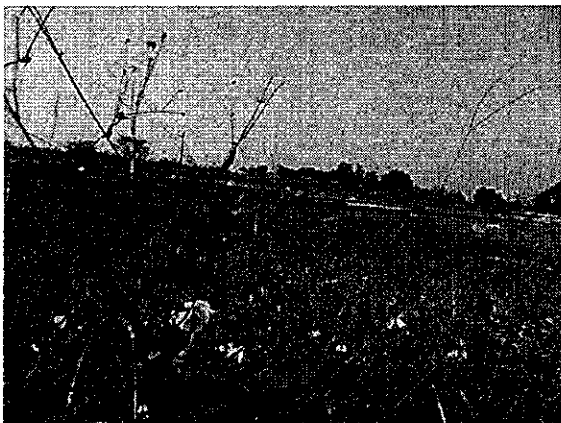


平成 30 年度 ベトナム研修

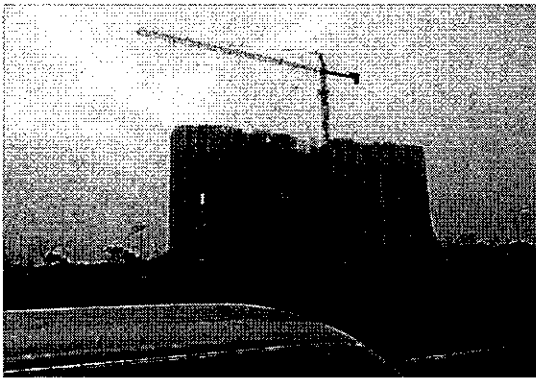
ベトナムの医療事情について



1 年 ■ 組 ■ 番
■

1. テーマについて

ベトナムは近年急速な経済成長を遂げている。人口の増加も著しく、労働人口の割合も多いことから今後さらに経済成長が進むと考えられる。日本を含む海外企業の進出も進んでいる。今回の研修でも建築中のたくさんの高層ビルや新しいきれいなハノイ空港、TOTO ベトナムへの企業訪問などで経済成長中である様子を感じることができた。その一方で実感したのが、インフラ整備はまだまだ進んでいないということだ。水道水はもちろん飲むことはできず、ミネラルウォーターを買わなければいけない。鉄道はほとんど見受けられず、ガイドさんは電車が来たらラッキーだと言っていた。道は空港の近くや観光地の近くは整備されている一方、自動車が普及し始めているとはいえ街中では、まだまだバイクの量が圧倒的に多く、朝のラッシュ時以外も常に道路は渋滞していた。また、ロンビエン橋という長い橋では、まずその古さに驚いた上、そこからの景色では現地のあまり裕福ではない人たちの生活の様子がうかがえ、格差が広がっていることが実感できた。



1 建築中の高層ビル



2 ロンビエン橋から見た生活の様子

さて、私は今回のベトナム研修で体調を崩し現地の病院に行った。そのおかげで学校、家庭訪問ができなかった一方、海外の、ベトナムの病院にかかるという大変貴重な経験になった。そこで私はこの経験をさらに生かすため、ベトナムの医療事情について調べることに決めた。

2. ベトナムの病院

先にベトナムでの格差の広がりについて述べたが、この格差が甚だしいのがベトナムの医療事情である。具体的には地域差、公立病院と私立病院での環境差である。

1. 公立病院

ベトナムでは公立病院の割合が高く、患者数も多い。これは価格差が大きく影響している。所得水準があまり高くない一般のベトナム人にとって病院といえば公的保険が適用されることが多いこの公立病院になっている。また、公立病院の医師は国家公務員であるため勤務時間が決まっていることや将来の出世、国民からの尊敬など様々な恩恵が受けられるようになっている。ベトナム3大病院のバックマイ病院（ハノイ）、チョーライ病院（ホーチミ

ン)、フエ中央総合病院はいずれもベトナムの代表的な公的医療機関である。

公共病院では医療スタッフや医療機器が不足し、ベッド占有率は 100 パーセントを超えている。つまり一部の患者は簡易ベッドを使用したり、二人の患者で一つのベッドを使ったりしているということだ。特にこれは中央の公共病院ほどひどくなっている。公的保険を受けるためにはまず自宅近くの公的医療機関に行くことが必要とされているが、地方の公的医療機関では医師が常駐しているとも限らなく、基本診療しか受けられない。そこで、対応できない患者はそのまま公的機関である都市部の大きな病院に送られてくる紹介制度、レファラールシステムがある。これによってこのような状況が生まれている。



公共病院は常に混雑しているため診察を受けるためには朝早くから受付のために行列をつくる。待ち時間を短くする、丁寧な診察を受けるなどのより良い待遇を受けたい場合は、非公式な追加料金を支払う必要がある。その上、ベトナム語しか通じないところが多く、日本人が公立病院で満足する医療を受けるのは困難である。

2. 私立病院

一方で私立病院では最新の医療機器、綺麗な施設などの設備が整っており、あまり混雑もしていなく、丁寧な診察を受けることができる。また、緊急外来は 24 時間体制が多く、予約不要で受診ができる。しかし、費用が公立病院の 2 倍以上かかることで患者数が少ないことや医師の確保が難しい、土地や税の面で公立に比べ冷遇されているなどの要因により経営難に陥っている病院も少なくない。

1994 年から病院経営に外資の導入が認められて以来、フランス系などの外資系の私立病院も増えている。近年では日系医療機関の進出や日本人スタッフが勤務している医療機関も見られるようになった。日本語通訳によるサービスを受けられるところもあり、言葉の面でも日本人にとって安心できる病院は私立病院である。しかし、それでもより高度な手術や難しい診断が必要な場合は日本やシンガポールやタイなどの周辺の医療先進国に緊急搬送される場合がある。

有名な外資系病院としては、ハノイで国際病院として最初に開かれたフランス系のハノイフレンチホスピタル(ハノイ)や同じくフランス系の FV ホスピタル(ホーチミン)が挙げられる。日系では初めての病院であるロータスクリニック(ホーチミン、ハノイ)や最近開かれた東京インターナショナルクリニック(ハノイ)では通常の診察だけでなく臨床心理士によるカウンセリングも受けられる。他にも日本人医師の医師や看護師が常駐している病院はインターナショナル SOS(ホーチミン、ハノイ、ブンタウ)や今回私がお世話になったファミリーメディカルプラクティス(ホーチミン 3 カ所、ハノイ、ダナン)がある。

ーファミリーメディカルプラクティス(ハノイ)を利用してー

ホテルからはタクシーですぐの場所に位置していた。中に入ると受付と待合室があり、かなり開放的で清潔な雰囲気だった。まず受付で書類を書いたがすべて日本語の表記があり、わかりやすかった。もしこれが英語はともかくベトナム語だったらと考えると言語が通じる大切さが身にしみた。病院の壁に貼ってある健康注意等に関する紙だと思われるものはほぼ日本語でかかれてあり、日本人患者が多いことが伺える。その後2階の診察室にエレベーターで上がり、診察を受けた。医師は現地の方だったが日本人の看護師さんが通訳をしてくださった。それ以外の看護師の方々の少しか日本語が喋っていたので日本人の患者は多いのだろう。医療器具も日本とさほど違いはなかった。この病院では渡航前に加入した海外旅行保険に対応しており、キャッシュレスサービスが利用できる。体調が悪くあまり詳しいことは覚えていないが現地では書類にサインをするだけであり、スムーズだった。

しかし、ハノイやホーチミンなどの大都市にはこのように大きな公立病院や外資系の私立病院がある一方で、地方には私立病院はほとんど無く、小さく衛生状態の悪い公立病院に行くしかない。かつ、貧富の差の激しいため、貧しい現地の人々は薬代すら払えないということもある。慢性的に医療関係者が不足しているため医療サービスは近隣アジア諸国と比べても水準は低い。しかし平行して水道や鉄道などの多くのインフラを整備しなければならぬため全国的に医療水準が上がるのにはまだまだ時間がかかると考えられる。

3. ベトナムの救急車

ベトナムでは救急救命体制も整っていない。ハノイでは公的機関の救急車は日本と同じ要領で115番にて呼ぶことができるが、日本語はともかく英語にすら対応しておらず、ベトナム語が必要である。普段から道が混雑している上、ベトナムでは救急車に道を譲るという教育がされていないため病院に着くまでに時間がかかる。また、料金は有料でベトナム人は2500円程度から、外国人は15000円程度からかかる。支払いは現金のドンのみだ。しかし、救急車に酸素ボンベさえ備えられていないことがあり、医療従事者が同行していない場合が多いため移動中に応急処置を受けることができない。無事に病院に到着したとしても、ベトナムでは診察、手術の際に前金を払うのが原則で、治療費が払えるか確認できないからという理由で治療してもらえないこともある。外資系の私立病院のプライベートの救急車は日本と変わらないような救急車もあるものの道路事情は変わらないため時間がかかる。よって緊急のときはタクシーで近くの病院に行くというのがベトナム人の普通で救急車の番号すら知らない人が多いようだ。

4. まとめ・感想

ベトナムの医療事情は外資系私立病院の進出などにより改善されてはいるもののまだまだ解決すべき問題が多い。また今回のベトナム研修では社会主義の影響をあまり感じなかったが、このように病院のことについて調べると公立病院の優位性が高いところなどに国

の力が大きいことがうかがえる。外資系はフランス系が多いことからフランスの支配下にあったことがまだ影響している。このようにベトナムはまだまだ発展途上であることが言えるだろう。しかし、ベトナムはとても活気に満ちていて魅力的な国である。これからますます日本人も増えるだろう。現地は水も衛生的ではなく、食べ物も違う。また、虫刺されや日本ではないような感染症の恐れもある。自分でも予想していなかったことではあるが、私のように体調を崩すこともあり得る。しかし、ベトナムの医療体制はまだまだ不十分である。今回私はたくさんの周りの人に助けをいただいたが、もし一人で病院に行かなければいけないようなことになれば、ただでさえ具合が悪く頭が働かないのに加え、知らないこと、わからないことが多く、より一層不安になったと思うし、実際に困る場面も多かっただろう。海外に行くときはもしものことも調べておく必要があると身に染みて感じた。最後にこの場を借りて心配してくださり助けてくださった先生、旅行会社の方、現地の病院の方々、ガイドさんをはじめ周りの方々に感謝を伝えたい。ありがとうございました。

5. 参考文献・引用

「VIETNAM LIFESTYLE」2019. 1. 10

<http://vietnam-lifestyle.com>

「海外移住.com」2019. 1. 10

<https://www.kaigaijyu.com/country/vietnam/medicalcare.php>

「海外旅住 navi」2019. 1. 10

<http://kaigaigo.com/vietnam-7393/>

「NNA ASIA 経済ニュース」2019. 1. 10

<https://www.nna.jp/news/show/1667250>

<https://www.nna.jp/news/show/1675638> … 3

「VIET JO life」2019. 1. 10

<https://life.viet-jo.com/howto/life/156>



必要不可欠な飲料